

1 スクールミッション、学校教育目標

就職も進学も強い！元気下商 ~生徒が主役の学校づくり・未来に富める人づくり~

県内唯一の市立商業高校として、下関市を中心とした地域・社会や地元企業・大学等と連携・協働した実践的・体験的な教育活動や、様々な資格取得に向けた専門的な学びを通して、郷土に誇りと愛着をもち、社会に貢献し、経済社会の持続的な発展を支えるビジネスのゼネラリスト、スペシャリストを育成します。

【学校教育の基本方針】

- 普通教科と専門教科をバランスよく実施し、確かな学力と社会人としての基礎力を育成します。
- 地域社会や地元企業・大学等と連携した実践的・体験的な教育活動を行います。

- 実社会で活用できるビジネススキルの習得や高度な資格取得に向けた教育活動を行います。
- 部活動や生徒会活動、学校行事等、生徒による自主的・自発的な活動を積極的に支援します。

【育てたい生徒像】

- 地域産業の発展を支える職業人として必要な資質・能力を備えた生徒

- 高い志をもち、多様な人々と協働しながら、主体的に未来を切り拓く力をもった生徒

【教育実践の4つの柱】

- 職業をつなぐ…3年間を見通したキャリア教育の推進

- 地域をつなぐ…保護者・地域との連携強化と積極的な情報発信

- 学びをつなぐ…確かな学力・社会人基礎力の育成と資格取得の奨励

- 心をつなぐ…生徒一人ひとりに寄り添う教育相談体制の充実

2 スクール・ポリシー

(商業科・関係する学部)	グラデュエーション・ポリシー (育成をめざす資質・能力に関する方針)	<input type="checkbox"/> 地域産業の発展を支える職業人として必要な資質・能力を備えた生徒を育成します。 <input type="checkbox"/> 高い志をもち、多様な人々と協働しながら、主体的に未来を切り拓く力をもった生徒を育成します。
	カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)	<input type="checkbox"/> 普通教科と専門教科をバランスよく実施し、確かな学力と社会人としての基礎力を育成します。 <input type="checkbox"/> 実社会で活用できるビジネススキルの習得や高度な資格取得に向けた教育活動を行います。 <input type="checkbox"/> 地域社会や地元企業・大学等と連携した実践的・体験的な教育活動を行います。 <input type="checkbox"/> 部活動や生徒会活動、学校行事等、生徒による自主的・自発的な活動を積極的に支援します。
	アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)	<input type="checkbox"/> ビジネスに関する知識と技術を習得し、それを活かして就職又は進学したいと考えている生徒を募集します。 <input type="checkbox"/> 将来、地域産業の発展を支える職業人になりたいと考えている生徒を募集します。 <input type="checkbox"/> 学習や様々な教育活動を通じて、充実した高校生活を送りたいと考えている生徒を募集します。

3 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

総務	他の分掌と連携して学校行事の円滑な運営を行うことに努める。学校の情報を的確かつ迅速に発信できるように努める。
教務	新教育課程移行に伴う授業の運用や、学習評価の定着・検討を行う。業務内容を確認し、教員の負担の軽減と次年度以降の業務引継の効率化を図る。
生徒指導	学校行事や各種委員会活動の活性化を図り、生徒の満足度を上げていきたい。また、学校教育目標の「凡事徹底」の4項目を中心に指導を進めていかたい。身だしなみについては、就職面接での服装を基準として教職員の共通理解のもと指導を進めていく。
進路指導	企業や大学等との情報交換を密に行い、保護者や生徒に積極的に情報提供したい。各学年での進路ガイダンスを有効に活用し、生徒の進路実現に努めたい。
保健体育	担任等と連携し、健康観察や治療勧奨を行うとともに、保健だよりや生徒保健委員会の活動を通して、健康情報の発信を行い、生徒の自己健康管理能力を育てたい。
教育相談・人権教育	生徒が安心して学校生活を送れるよう適切な支援を全校体制で行いたい。また、自己肯定感を培い他者尊重の意識を育める環境づくりに努めたい。
図書	魅力的な図書館となるよう、生徒のニーズと学びを兼ね備えた選書を心掛けたい。読書・学習・情報の各センターとしてのそれぞれの機能を、時代に合った形でより洗練させていく。
情報	校内のコンピュータ機器や校務システムを整備し、滞りないよう運用・管理を行う。学習用端末を積極的に活用できるよう、研修の実施や規定の整備等を行い、不具合等が発生した場合は迅速に対応できるよう努める。
1年	適切な言動を、自分で考え、実践できる生徒を育成する。また、生徒一人ひとりの進路目標を明確にしていかたい。
2年	キャリア教育を充実し、生徒が自己の進路目標を確立できるようサポートする。
3年	一人一人が希望する進路を実現できるように多面的にサポートする。また、自己肯定感を高め、他者尊重の態度、社会人基礎力を培えるよう支援する。
商業	校内外での研修を充実させる。地域社会に貢献できる人材を育成できるよう、地元企業と連携し、社会人基礎力、ビジネスマナー、実践力を育成していく。卒業までに全商検定1級3種目以上40名をめざす。
情報処理	クラス担任・教科担当者等との連携・協力を深め、資格取得や進路実現に向けて適切な指導を行う。プログラミングやネットワークに対する興味関心をしっかりと持たせ、より高度な資格取得を目指す。
業務改善	「業務の見直し・効率化」、「勤務体制等の改善」、「学校支援人材の活用」の3つの柱をもとに働き方改革を推進し、各業務の目的を共有し協働して教育活動を行う業務体制を整える。また、教職員が心身ともに良好に業務を進めることができる職場づくりに取り組む。

4 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題

【令和6年度重点目標】

- 凡事徹底…①進んで挨拶をする。②掃除を徹底する。③時間・約束を守る。④服装・身なりを整える。
- チャレンジ目標…①国公立大学合格 20人以上 ②就職内定率 100% ③全商検定1級3種目以上合格 40人以上

- 生徒が主役の授業づくり…①わかる授業 ②主体的・対話的な授業 ③探究的な授業 ④ICTを活用した授業

5 自己評価						6 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	情報発信の充実	①インターネットを使った情報発信	学校評価アンケート（保護者）の項目で「お子様の学校生活の様子は、ホームページ等で、家庭へよく伝わっていると思う。」がA：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総務部が行っている「インターネットを使った情報発信」は「ホームページ」である。しかし、一年にも指摘したとおり、保護者アンケートの質問項目に不備があるため、保護者アンケートを受けてのホームページに関する診断・分析は十分に行えない状況である。 ・ホームページは今年度、見た目や操作性を改善し、新着情報の発信は年間約120回行った。近隣の他校と比較しても、十分な情報発信を行っていると考えている。 	・情報発信が倍率につながっていると思われる。誰に対して情報発信を行うのかが大切だと思う。また、その相手に刺さる内容で目的と手段を明確にすることが大切だと思う。 ・InstagramやFacebookなどを活用してはどうか。 ・ホームページが見やすく充実しているが、情報量の増加により担当者の業務負担が多くなっているのではないか心配である。	A
		②学校案内による学校紹介	学校案内が分かりやすく編集されている。	B	表紙を作り替えたが、内容的には改善の余地があると考えている。	・昨年の内容より充実し、分かりやすくなっているので良いと思う。 ・情報量を絞ってコンパクトにまとめてはどうか。 ・生徒たちの家庭学習は不足しているように感じるが、学校での学習への取組みは良いように思われる。	B
教務	学力向上	①基礎学力の充実に着目した授業づくり ②自主学習の習慣化への工夫 ③補習・課外や個別指導 ④基礎力診断テストの活用	学校評価アンケート（生徒）で「あなたは、授業に積極的に取り組んでいる。」がA：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	A	・教務が実施しているアンケートでも、授業中の態度や課題の提出状況などの達成度は高く、積極的に授業に取り組んでいることが分かる。	・平日と考查期間を総合してみると、家庭学習の習慣はできていると考えられる生徒は多いほうである。しかし、達成度は60%強であるため、継続的な学習習慣の定着率の向上が今後の課題である。	A
			学校評価アンケート（生徒）で「あなたは、家庭学習を行う習慣ができるていると思う。」がA：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	B	・生徒による教員の様子や、授業の進め方などの評価が高いことから、教員の日々の工夫の成果が生徒にも伝わっていると考えられる。また、観点別評価が今年度より全学年で実施され、評価方法等も十分工夫されていると考えられる。	・30分未満の家庭学習では、ほぼやっていないと同じではないか。 ・検定シーズンの2月は6割以上が増加しており、検定への取り組みは良いと思う。 ・自宅ではなくエキスタの利用などもあるのではないか。	B
			学校評価アンケート（教員）で「私は、基礎学力の充実に向けた授業づくりの工夫を行っている。」がA：80%以上であった。 B：60%以上であった。 C：40%以上であった。 D：40%未満であった。	A	・達成度より、生徒は学校の授業を十分理解していると考えられる。	・ICT機器の活用を推進されており、分かりやすい授業の工夫をされているので、今後も基礎学力の定着に取り組んでご指導いただきたい。	A
			基礎力診断テストの状況	A	・概ね良好で、他校と比較して達成度も高い。	・達成度については、表記のとおりで良いと思う。	A

教務	教員の指導力向上	①生徒による授業評価の実施 ②研究授業、公開授業の実施 ③校内外の研修会への積極的参加	学校評価アンケート（生徒）で「先生方は、あなたの学力の定着を図るために授業や補習など熱心に取り組んでいると思う。」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・普段の授業はもちろん、理解度の高くなき生徒への補習も熱心に行われている。	A	
			学校評価アンケート（教員）で「授業アンケートの結果に基づき、授業改善に取り組んでいる。」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・ほとんどの教員が改善に取り組んでいる。特に観点別評価は評価方法等を検討し、改善が図られている。	A	
学習支援体制作り			学校評価アンケート（教員）で「教材研究、公開授業や各種研修会等に参加するなど授業研究に取り組んでいる。」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・教材研究は積極的に取り組んでいる。一方、公開授業や各種研究会等は、業務の多忙化等あまり参加できていない。また参加するためには授業を自習にせざるを得ない場合があり、そのため参加できないこともあります。	A	
			学校評価アンケート（生徒）で「本校は、進路に応じた教育課程や選択科目が用意してあると思う。」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・今年度より全ての学年で新課程に移行し、新たに用意した必修Ⅱや選択Bの科目が実施された。特に選択Bの科目数は、今までより増えおり、より生徒の進路希望に添う科目が実施されていると考えられる。	A	
生徒指導	学校行事の充実	①学校行事の見直し ②各種委員会の活性化 ③学校行事の分担制	学校評価アンケート（生徒）で「学校行事等の満足度」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・学校行事について、生徒会執行部を中心に運営を行うことが出来た。 ・「鹿児島商業姉妹校交歓会」では、鹿商の施設設備の充実に驚かされた。下関市も下関商業高校の施設設備の充実に向けて力を入れていただきたい。	A	
			学校評価アンケート（生徒）で「校則や決まり事を守っている」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	学校の取り組みとして、服装頭髪検査は年間を通して8回程度、J Rの乗車指導と通学路指導は各学期に回数つ行い、適宜指導を行った。また、服育セミナーと風紀委員の挨拶運動等を通じて、生徒の規範意識の向上を図っている。	A	
環境美化の推進	生徒の規範意識の向上	①頭髪服装指導の実施 ②着校指導の実施 ③風紀委員による挨拶運動の実施 ④J R乗車指導の実施 ⑤通学路指導の実施	学校評価アンケート（生徒）で「意欲的に清掃活動に取り組んでいる」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	今年度も引き続き、「掃除区域の見直し」や「掃除道具の点検」を重点的に取り組んだ。生徒の「清掃活動に意欲的に取り組んでいる」の項目が、昨年度84.9%から今年度は「A」と評価方が変わっているが、今後も委員会活動などを通して、さらなる向上を図っていく必要がある。今年度は校外の清掃活動として、下関支援学校と共同でクリーン作戦を企画、実施することが出来た。	A	
			携帯安全教室のアンケート結果において、「SNSの利用を見直そうと思った」の項目が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	情報モラル教室として、「携帯安全教室」を5月に実施した。今年度も、下関警察署より講師を招き、S NS上のトラブル防止の観点から講演をしていただいた。また、仮入学においても「情報モラル教室」を行い、保護者も含め注意喚起を行うとともに、プリント配布など実施することが出来た。	A	
進路指導	情報モラル教室の推進	①携帯安全教室の実施 ②新入生へのS NSトラブルの注意喚起	学校評価アンケートで「進路に関する情報を積極的に提供し、生徒への進路指導は十分行われている」が A : 80%以上であった。 B : 70%以上であった。 C : 60%以上であった。 D : 60%未満であった。	A	・保護者や生徒への情報提供など進路指導に関する評価は高く、概ね達成できた。校内の総合的な探究の時間やLHRの時間を中心とした進路ガイダンスや校外での見学・体験型ガイダンスへの参加も継続できた。個別指導等も計画的にを行い、進路指導部と学年団、生徒、保護者の連携が図れた結果といえる。来年度も引き続き生徒の進路実現に向けて、3年間の「つなぎ」を意識したキャリア教育の推進に努めたい。	A	
			就職内定率100%	A	・本年度も下関市内の企業を中心に各事業所を訪問し、求人開拓を行った。求人状況は良好で、14年連続就職内定率100%を達成できた。今後も地域にとって有為な人材を育成できるよう努めたい。また昨年度より求人票デジタル共有システム「Handy進路指導室」を導入し、求人票をデータ化することで生徒や保護者がスマートフォンやタブレットで閲覧できるようになり、利便性が高まった。	A	
保健体育	国公立大学を中心とした進路指導	①個別課外指導（小論文、面接、教科指導等）	就職内定率が A : 100%であった。 B : 90%以上であった。 C : 80%以上であった。 D : 80%未満であった。	A	・小論文指導において全教員が協力し、複数の教員に対して複数の教員が関与するグループ体制が定着し、成果を上げている。この取り組みにより、広い視点から生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい小論文指導が可能となった。今年度は国公立大学において26名（山口大学1名、下関市立大学24名、北九州市立大学1名）が合格を果たし、私立大学を含めてほとんど生徒が第1志望の進学先に合格することができた。新たな取り組みとして下関市立大学データサイエンス学部合格者に対して数学科教員の協力で入学者教科指導を行った。	A	
			健康意識を高め、自己の健康管理を実践する力の育成 ①健康観察の徹底や疾病異常者の早期受診指導 ②心のケアや健康相談体制の充実 ③健康に関する情報の発信 ④生徒保健委員会活動の充実	B	健康観察の実施状況、要治療者の受診状況。 担任、教育相談等と連携し、情報共有しながら生徒対応できたか。 保健だよりの発行状況。 生徒保健委員会の活動を通して、健康教育の充実を図ることができたか。	B	
教育相談・人権教育	適切な判断力・行動力・自他への安全意識の育成	①私語を慎む ②時間に厳守 ③服装を正す ④挨拶の励行 ⑤傾聴を正す	アンケートで①から⑤の項目に関する達成度が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	B	健康安全・体育的行事や保健教育、集会指導、部活動、授業などを5つの具体的方策中心に進めた。(2)、(3)についてはおおむね良好に思われる。課題としては、集合時に私語が多くたり、他の者が話をしているときに理解しようとする努力がまだ不足しているように思われた。	B	
			教育相談の充実 ①学校生活アンケートの実施 ②対面による面談、メールによる相談の実施 ③教員間、S Cと協力して問題の改善を図る	A	・毎月、学校生活アンケート等を実施して、生徒の実態の把握に努めた。記入があった内容については、個別面談を通して担任から確認してもらつた。	A	
人権教育の推進		①クレペリン検査、Z 検査等を実施して生徒理解を深める ②人権、命の尊さに関する生徒向けの講演会の実施 ③教職員向けの人権教育、特別支援教育に関する研修会の実施	学校評価アンケート（生徒）の項目で「悩みに関する相談について、適切に対応していると思う」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・生徒の抱える問題について全校体制で支援できるように、職員会議に情報交換会を設けて教員間で情報を共有した。S C、S SW等とも連携し、専門的な立場からの助言を受けた。生徒や保護者にとって可能な限りより良い方向に向かうよう努めた。	A	
			各種検査、生徒向け講演会、教職員研修会を A : 全て実施した。 B : 2つを実施した。 C : 1つを実施した。 D : いずれも実施しなかった。	A	・全校生徒を対象に、下関市人権擁護委員会より講師をお招きして「データDV防止講座」を行って頂いた。また、1年生を対象にAFPY、2・3年生を対象にアンガーマネジメント、全校生徒を対象にSOSの出し方といった心理プログラムを行い、心の教育の充実に努めた。教職員に対しては特別支援教育に関する研修を行った。	A	

教育相談・人権教育	いじめ防止の推進	①いじめ調査（学校安全アンケート）の実施 ②授業やLHRを通して啓発活動を行う	学校評価アンケート（生徒）の項目で「いじめもなく友達とも仲良く学校生活を送っていると思う」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・人権教育の講演で「デートDV」について考えていく中で、お互いを尊重し合う対等な関係を築く難しさ、大切さについて学んだ。誰もが身近な問題として捉えることができた。恋愛関係に限らず、日頃からSNS上のトラブルや心無い言動によって傷つく生徒は多い。知らないうちに自分が加害者になる可能性があることに気づき、日常生活の中で人権に配慮した行動ができるよう今後も啓発活動を続けていきたい。	・アンケートの回答が少数の部分にも、目に向けて欲しい。	A
			学校評価アンケート（保護者）の項目で「いじめもなく友達とも仲良く学校生活を送っていると思う」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・1・2学期末に一度ずつ、保護者と生徒が一緒に回答する学校安全アンケートを実施し、校内外の危険個所や、いじめや嫌がらせ等の有無を確認した。特にいじめや嫌がらせに対するは、担任や学年主任、生徒指導部と連携して問題解決に努めた。無記名で実施することによって問題を訴えやすくなる半面、教員の介入が難しいという問題点は残る。把握した状況を元に、教員が継続的に見守っている。		
図書	魅力的な図書館作り・運用・保守	①生徒のニーズと学びを兼ね備えた選書 ②読書・学習・情報各センターとしての機能の洗練	本の貸し出し冊数の変化	A	・新着図書紹介や、買い入れ図書の投票板を設置してより多くの生徒に興味をもって参加できる環境をついた。		B
情報	情報機器・校務システムの管理・運用・保守	①学習用端末の管理・運用・保守 ②校務システムの円滑な運用	学習用端末や校務システムなどが整備されており使用しやすい環境である。	A	校務システムについて調査書レイアウトの大幅な変更を行った。今年度末に情報機器のリース切替があるが、滞りなく対応していきたい。		A
第1学年	基本的生活習慣の確立	①授業や学校生活中で凡事徹底を図る ②将来を見据えた目標設定や生き方・在り方を具体的に考える	学校評価アンケート（生徒）の項目で「基本的生活習慣や社会のルール・マナーを身につけるよう努めている」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・規則正しい生活習慣が身に付いており、落ち着いた学校生活を送ることができている。学年全体で集合する際には必ず5分前集合と点呼を速やかに行えるようになっている。凡事徹底の面では、もう少し積極的なあいさつや、主体的に掃除や課題に取り組む姿勢があるとよい。		A
第2学年	キャリア教育を充実し、進路についての目標を確立できるようにする	①授業やLHR等を通して将来のビジョンを具体的に考える ②家庭と密に連絡を取り情報提供に努める	学校評価アンケート（生徒）の項目で「あなたは、自らの進路について、はっきりとした目標をもち学校生活を送っていると思う。」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・各学期毎にLHRや放課後等で個人面談を実施し、進路に関する意識を持つように指導した。3年次の選択科目説明会や課題研究説明会を通じて、進路決定を見据えた選択をするように指導した。		A
第3学年	社会人基礎力を習得させ、自ら主体的に考え方行動できる力を養成する	①自己実現に向けて社会性や主体性を育めるよう学校生活をサポートする ②保護者と密に連絡を取り、定期的に進路情報を発信する。	学校評価アンケート（生徒）の項目で「本校は学校と家庭の連携がうまくしていると思う」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	就職や進学に向けて一人一人が主体的に取り組み、ほぼ希望する進路に決定した。その取り組みの中で、各自が自分自身と真剣に向き合い、家族と話し合いを重ねて、働くことや学ぶことについて認識を深めることができた。学年団として進路指導部と協力しながらサポートすることができた。		A
商業科	1学年…ビジネスの基礎とビジネスマナーの育成	簿記・ビジネス基礎・情報処理の基本3教科の知識・理解を定着させるために補習と課外を実施する	日商簿記3級130名以上、全商情報処理2級145名以上の取得	A	日商簿記3級合格者が現時点では121名（目標達成率93.1%）、全商情報処理検定2級では143名（目標達成率8.6%）が合格した。日商簿記に関しては3/18に30名前後再受験するため、対生徒に対しての課外を行いより多くの生徒を合格させたい。		A
	2学年…コース別学習の充実、上級資格取得への取組	①グループワークや外部講師による講演、校外学習などを実施する ②全商検定1級取得をめざす	グループワーク等を積極的に取り入れる。全商簿記実務検定1級50名以上、全商ビジネス計算実務検定1級25名以上、全商ビジネス文書実務検定1級15名以上の取得	A	全商簿記実務検定試験1級53名（目標達成率106.0%）、全商ビジネス計算実務検定1級24名（目標達成率96.0%）、全商ビジネス文書実務検定1級9名（目標達成率60.0%）が合格した。		A
	3学年…社会人基礎力の育成、全商1級3種目の取組	①「総合実践」でビジネスマナー教育を実践 ②商業経済検定1級の取得で全商検定1級3種目取得をめざす	全商検定1級3種目以上合格者数30名	B	全商検定1級3種目以上合格者数が10名（目標達成率33.3%）であった。コース制の関係で全商商業経済検定の資格取得を目指さずにより専門性を学びたいとする生徒も増えているので、目標自体の見直しの必要がある。		A
情報処理科	2学年…意欲的に資格取得に取り組む	全商情報処理検定1級ビジネス情報部門および、2級プログラミング部門の取得を目指す	情報に関する応用的な内容の理解と、全商情報処理検定1級ビジネス情報部門および、2級プログラミング部門の取得。	A	全商情報処理検定1級ビジネス情報部門17名、2級プログラミング部門31名の合格者を達成した。全商検定1級3種目以上合格者が7名に達した。		A
	3学年…情報に関する専門性を高める	WEBサイトの制作や電子商取引、PHPを使ったプログラミングなど、高いレベルの知識・技術を習得する	全商検定1級3種目以上合格者数20名 高度資格取得（日商簿記2級、ITパスポート）	A	全商簿記検定1級20名、日商簿記検定2級14名、ITパスポート8名の合格者を達成した。全商検定1級3種目以上合格者が19名に達した。		A
特色ある教育活動の推進	実践的な取り組み	①持続可能なコミュニティ・スクールの取組の展開 ②チャレンジショップの更なる発展 ③課題研究の取組の充実 ④高度資格取得に向けた取組の充実	学校評価アンケート（生徒・保護者）の項目で「本校は特色ある教育活動を行っていると思う」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	A	・教科指導では、英語、家庭科、商業において、多くの地域連携に関する取組みを行っている。 ・課題研究「チャレンジショップ」では、生徒の受け入れを昨年48名から65名増やして体験学習の場を与えている。担当教員の数が少なく協力体制を検討している。		A
	高度な学習の展開		日商簿記、ITパスポート等の高度資格取得合格者数の割合及び合格者数が前年度比 A : 割合、数ともに増加した。 B : 割合、数のいずれかが増加した。 C : 変わらなかった。 D : 割合、数ともに減少した。	A	・本年度は応用情報技術者試験の合格者が1名、ITパスポートの合格者が7名だった。日商簿記1級の合格者は4人である。ITパスポートの合格者5名と応用情報技術者試験の合格者は部活以外の生徒である。今後はコース必修の学習の延長として合格者増に期待したい。		A
業務改善	働き方改革に係る「当事者意識」の高揚と、協働の業務体制を整える	①各業務の目的を明確化して共有し、協働による業務体制で教育活動を遂行する。 ②業務時間削減に向けて、主体的にセルフジョブコントロールに取り組む。	学校評価アンケート（教員）の項目で「在校等時間記録表に基づきセルフジョブコントロールを推進している」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	B	・業務時間記録表の提出率は昨年度同様100%であり、超過勤務時間については昨年比99.8%で、ほぼ横ばいである。業務を見える化と精選を進め片寄りのない業務分担を行い、協働体制による業務の遂行で、個々の業務時間削減を目指す必要がある。		B
	働き方改革に係る具体的行動	①長期休業中の「時差出勤」や「学校閉庁日」を活用し、ワーク・ライフ・インテグレーションを実現させ、充実した仕事と生活を営む。 ②適切な業務分担で業務遂行にあたり、全体の進捗度に応じてサポートできる体制を整える。	学校評価アンケート（教員）の項目で、「長期休業中の「時差出勤」等の活用を推進し、業務時間短縮に努めている」が A : 80%以上であった。 B : 60%以上であった。 C : 40%以上であった。 D : 40%未満であった。	B	・今年度においては長期休業中の「時差出勤」等の活用推進と業務時間短縮について、アンケート結果は昨年の60.0%から77.3%に上がり、意識されてきている。次年度も教職員に対して働きかけ、協働体制で業務を遂行し、業務時間削減に向けての意識を高めていきたい。		B

7 校校評価総括（取組の成果と課題）
【総務】学校案内の改善と、学校行事の見直しを検討していくたい。
【教務】授業改善や適切な指導等の教員側の努力の結果、生徒の満足度も高い値を維持している。ただし、新教育課程による授業内容の変更や観点別評価など、教員側の負担も大きい。
【生徒指導】学校行事について、コロナ禍以前の形に戻し実施することが出来た。姉妹校行事では、鹿児島商業高校を訪問し、生徒会、バスケットボール部ならびに硬式野球部の交流会が実施出来た。生徒総会では「講堂にセブンティーンアイスを設置したい」という議案を、生徒会執行部を中心まとめて、事務室にも協力してもらい実現することが出来た。今後も様々なことにチャレンジ出来る環境を整えていきたいと感じている。7月には下関総合支援学校と合同で校外清掃を実施出来た。また情報モラル教育についても、外部講師による講義を行い、意識を高めることが出来た。各学期の始業式、終業式の際には、間バイトやSNSの活用について注意喚起を行った。
【進路指導】就職に関しては14年連続内定率100%を達成することができた。次年度も事業所との情報交換を図り、就職先の確保に努めるとともに、地元に就職して地域産業を支える職業人の育成に努めたい。進学に関してはグループ体制での小論文指導を確立していくたい。また3年間の継続したキャリア教育を推進し、多様な人々と協働しながら主体的に未来を切り拓く力を持った生徒の育成を図りたい。
【保健体育】担任等と連携し、健康観察の徹底や治療勧奨を行うとともに、保健だよりや生活アンケート結果等をとおして健康情報の発信に務めた。また、今年度も心身の不調を訴える生徒や、風邪症状等で体調を崩す生徒が多く保健室利用が急増した。今後も継続して担任や教育相談、SC等と連携し、共通理解を図り、組織的に対応していくたい。
【教育相談・人権教育】生活アンケートや学校安全アンケート、担任の面談等を通して生徒の実態を把握することができた。生徒の意識にも、困ったことがあれば周囲の大人に相談するという意識は根付いているように見受けられる。心の問題を抱えた生徒が増えていることを鑑みると、校内の支援体制がより充実することが望まれる。
【図書】朝読書の時間に用いる図書貸し出しや授業での図書館利用への協力をいただきながら、図書館に来なくなるよう、新着図書の案内や買い入れ図書の投票板を設置したり、図書館に来たら読みたくなるよう惹きつけるポップ作成に工夫を重ねた。
【情報】昨年に比べて学習用端末を活用する機会は増えているが、より積極的に活用するためには授業等で活用方法の指導をしていく必要がある。昨年度の課題であった故障機が増えてきている問題については年間に約4台分の予算をつけていただいたこともあり、現時点では台数を確保して運用できている。
【第1学年】基本的な生活習慣が確立している。学校行事には互いに協力し合い、意欲的に参加した。コースや科目の選択、インターンシップなどにも積極的に取り組むことができた。落ち着いた雰囲気、学習に対するモチベーション、凡事徹底等、引き続き持ち続けて次学年ではさらに充実した学校生活を送ってほしい。
【第2学年】進路指導部と連携を密におこなったことで、多くの生徒が進路を見据えた学校生活を送ることができた。進路に対して具体的なビジョンが持てていない生徒に対して継続して指導する。
【第3学年】小論文対策や面接指導など進路実現に向けて教職員一丸となって支援することができた。それぞれの道をそれぞれの速度で一步ずつ歩んで行ってほしい。
【商業】検定の資格取得に向けて7限目課外の実施や通常の補習等など生徒の学力に応じた指導を勤務時間を超えて部活動と両立を行いながら先生方には行っている。合格率を上げる必要もあるが先生方に無理な負担にならない配慮も必要となる。
【情報処理】情報処理科の担任や教科担当者との連携を図り、生徒一人ひとりの成長が結果として現れた。3年生の進路では、国公立大学7名も含めて多くの生徒の進路実現を果たした。今後も、多くの生徒が全商検定1級3種目以上合格や高度資格の取得ができるように指導を継続したい。
【業務改善】各分掌において情報共有を図り組織的な対応を心掛けていただき協働の体制で業務を遂行している。今後もより一層協働体制の強化を図り、業務負担に偏りがないよう平準化を目指したい。

8 次年度への改善策
【総務】中学生が見やすい学校案内へ改善する。学校行事の見直しを行い、精選する。
【教務】新課程に完全移行したこと、それぞれの教科の課題が確認できた。また生徒の家庭学習の定着が引き続き課題と考えられる。
【生徒指導】学校行事について精査も含め、さらによいものにしていきたい。規範意識を高めるために「ルールを守る」といった意識だけでなく、「そのルールの必要性」を理解させることを意識した指導が展開できればと考えている。清掃活動については、近隣の学校と共同で校外清掃活動に再度チャレンジしていく。情報モラル教育については、トラブルの未然防止の視点だけでなく、望ましい利用の仕方や社会問題をとらえた指導を行っていきたい。
【進路指導】就職に関しては次年度も企業と連携を図り、地域の活性化を担う人材を送り出せるよう努めたい。進学に関しては多様な進学先に対応できるように指導体制を確立していくたい。また、生徒や保護者に対して進路情報の提供も積極的に行いたい。
【保健体育】健康観察や治療勧奨については、担任等と連携し継続して徹底させていきたい。また、心身の不調を訴える生徒や保健室利用も多いため、担任や教育相談、SC等と連携し共通理解を図り、組織的に対応していくたい。
【教育相談・人権教育】生徒や保護者が安心して相談できる体制作りと、人権教育、心の教育、教職員研修等の更なる充実を図りたい。
【図書】利用者増加に取り組みたい。国語社会など資料を探し活用するのにタブレットではなく紙を用いることでの学習効果は高い。小論文に表現される様々な教科を横断的につなげる思考力、人間力を醸成することにつなげたい。
【情報】業者と連携をしてより良い環境整備をしていかなければならない。また、教員の業務改善ができるよう校内研修なども実施したい。
【第1学年】より充実した学校生活が送れるよう、学習指導や進路指導をサポートしたい。また、自主自律の学年目標を継続し、適切な言動を、自分で考え、実践できる生徒を育成する。
【第2学年】個人面談に時間を割き、学習意欲や資格取得など、進路に関する課題意識を持たせるような指導をする。
【第3学年】生徒一人一人が夢に向かって進めるような支援体制について、今年度の反省点も含めて引き継いでいきたい。
【商業】検定の合格率を上げると同時にコースの独自性がより発揮できるよう、外部の方の協力を得ながら専門性が深まるような授業を行っていく。
【情報処理】資格取得や進路実現に向けて適切な指導が行えるよう、教員間の連携と生徒の意欲向上を図る。
【業務改善】情報共有による業務の見える化の推進。業務分担の平準化と協働体制の強化。